

永年積み重ねたプラスチック加工の技術力 透明度やデザイン性、アクリル材の 可能性を活かした製品開発

友成工芸

友成工芸(世田谷区池尻、友成哲郎社長、03・3413・7050、<http://www.tomonari.co.jp>)は、昭和27年1月創業のアクリル加工業者である。創業当初は、工業製図用のプラスチック定規制作を行っており、ミクロン単位の正確さと長期使用に耐える彫刻技術が要求される製品を長く取扱ってきたため、確かな技術力と上質な製品へのこだわりは強い。

プラスチック類の中でも特に透明度が高いアクリル材は、無色透明で強度もあり、素材の特性を活かしたデザイン性のある形状に加工することが可能なので、現在では主に、トロフィー・POP・商業用ディスプレイ・そして自社ブランド商品である「mas/mas(マスマス)」を製造している。

トロフィーに関しては、法人クライアントからの依頼が多く、社内イベントを始め、ゴルフコンペや各種式典の表彰トロフィーなど

幅広く受注している。

また、自社ブランド製品「mas/mas(マスマス)」は、非常に珍しい「透明アクリル製酒升」である。従来の木製酒升は縁が分厚く女性には飲みづらい形状であったが、同製品は、縁の厚みを3mmと薄く加工して飲みづらさの問題を解消した。さらに同社彫刻技術によって、オリジナルデザインの彫刻を2面に施したオンリーワンの製品に仕上がり、近年の日本酒ブームも相まって国内外から高い評価を受けている。



透明アクリル製酒升「mas/mas(マスマス)」。
3mmの薄い縁加工や彫刻デザインに、同社の技術力が光る

確かな技術を有する同社だからこそ、他社には真似できない加工が可能であり、「今後もさまざまな企画・デザインにより、アクリル素材の可能性を広げていきたい」と社長は意気込みを語る。



同社の手がけたさまざまなアクリルトロフィー